

“挑戦しない”と言われる私たちは、本当にそうなのか？

— 18歳意識調査 × 価値観カード × 自分の変化 —

日本の高校生とサンフランシスコの留学生による
価値観カード交流を通じた探究

発表者 有澤 悠真、車谷 穂香、丹下 悠生
得能 大輝、早木 悠真

18歳意識調査への違和感から、日本の高校生と留学生の価値観をバリュースカードで比較した。その結果、日本の高校生は挑戦心がないのではなく、誠実さや慎重さが無意識のブレーキとなっている可能性が示唆された。

①きっかけ：18歳意識調査への違和感

	自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられと思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

- 「日本の高校生は挑戦しない」という調査結果
- たしかに、そう見える部分もある
- しかし、私たち自身の実感とは少し違う
- 努力してきた経験や挑戦の記憶がある

② 私たちの問いと仮説

問い

- 本当に18歳意識調査は現実を表しているのか？
- サンフランシスコの留学生はどんな価値観をもっているのか？

仮説

多様な人種・ベンチャーが集まる場所なら
挑戦志向が強いのではないかと

調査方法：価値観の対話

- 日本の高校生 + サンフランシスコの留学生
- バリュースカードを用いた対話
- 自分にとって大切な価値観を5枚選択
- 現地で留学生と同じ方法で実施



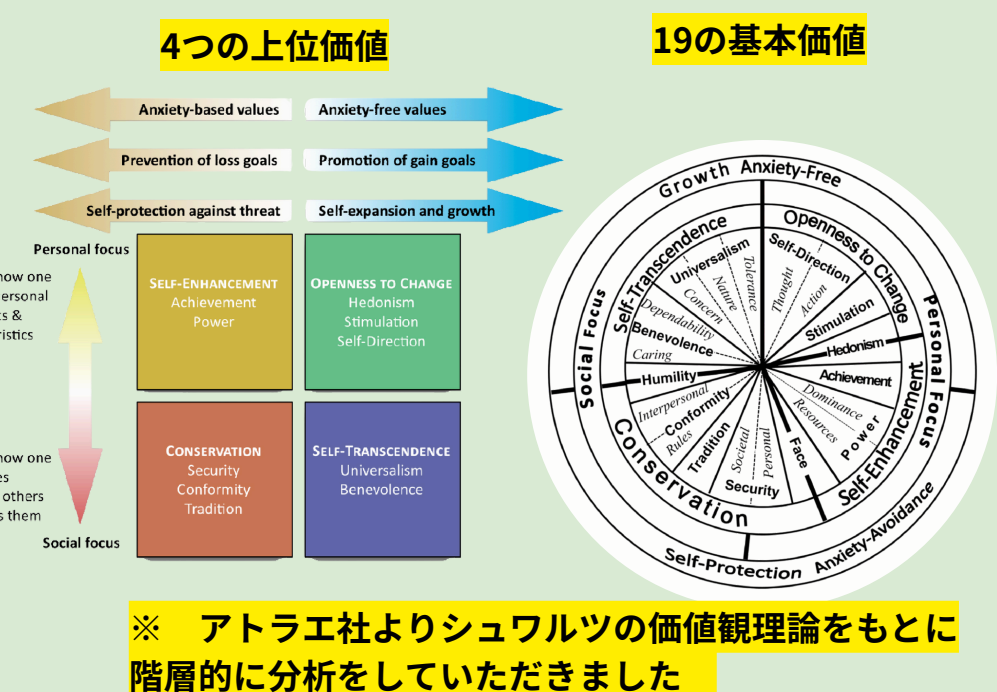
アトラエ社の価値観分析（シュワルツ理論）を参考



③ データから見たこと（分析） 国を超えた共通点と相違点

SFの留学生	安定重視	挑戦重視		日本の高校生	安定重視	挑戦重視	
自己表現	22.67%	26.67%	49.33%	自己表現	28.18%	29.09%	57.27%
社会的関係	14.67%	36.00%	50.67%	社会的関係	14.55%	28.18%	42.73%
	37.33%	62.67%			42.73%	57.27%	

- 日本・海外ともに「挑戦重視」は過半→つまり私たちは「挑戦心がないわけではない！」ということが明らかに…！
- ただし、頻出カードが日本は「Effort（努力）」SF留学生は「Passion（情熱）」である。ここで推察されることは、挑戦の駆動源（燃料）が日本と海外で異なる傾向にある。
- 海外は 社会的関係・意義が挑戦と結びつきやすかった。



※ アトラエ社よりシュワルツの価値観理論をもとに階層的に分析をしていただきました

最終的な問い

挑戦したい気持ちはあるのに、私たちはなぜ一歩を踏み出せないのだろうか。挑戦にブレーキをかけているものは、何なのだろうか。

考察：何が挑戦を阻むのか？

グループでの対話より
失敗したらどうしよう／周りに迷惑をかけたくない
準備が足りていない気がする／周囲の目が気になる
誠実さ・責任感・努力を大切にするからこそ慎重になる
その慎重さが、無意識のブレーキになっている可能性

学校生活と重ねてみると

授業での発言／部活動での新しい提案
→ 良いアイデアがあっても踏み出せない
出る杭は打たれるという空気
18歳調査結果と自分たちの感覚が繋がった

まとめと、次の問い

～take the road less traveled～

— 平坦な道ではなく、人が通らない道を選ぶ —

日本人が苦手としている姿勢かもしれない

しかし、誠実さ・責任感や努力に挑戦する**情熱**が合わされば
創造的な価値が生まれる

